



〈多文化共生講座・写真展案内〉
魅惑の南インド
 —文化と儀式と人々と—

お 話 ^{かわもと}河本 ^{けんじ}憲治 (元インド駐在員)

南インドは、デリーなどの北インドとは言語も文化も異なり、日本人が抱く一般的なインドのイメージとは違う世界です。外部からの異文化の影響も少なく、古来の文化を今でも色濃く残しています。人々はしきたりや人とのつながりを大切にし、明るく穏やかに生きています。

この講演と写真展では、河本さんが暮らした南インドの、なかなかふれることのできない儀式や日常を紹介いただきます。この機会を通じて、南インドへの興味や親近感、さらには、自分とは異なる背景を持つ人々への想像力の喚起につながれば幸いです。

〈講演〉

◆第1回◆象の祭事、ヒンズー寺院、結婚式、ガート(水辺の施設)について

と き 2月12日(日) 昼2時～4時

ところ 公民館 地下ホール

◆第2回◆インドの儀式と神々、カーストについて

と き 2月23日(木・祝) 昼2時～4時

ところ 公民館 地下ホール

*講演の一部に、市民サークルのフルートアンサンブルリベラによるインド音楽の演奏を予定しています。

定 員 60名(申込先着順)

申込先 1月11日(水)朝9時～ 公民館☎(572)5141

昨年、日本とインドは外交関係樹立70周年を迎えました。
 本企画は外務省により2022年日本・南西アジア交流年行事に認定されています。



第 755 号

2023年 1 月 5 日

(令和 5 年)

「くにたち公民館だより」
ホームページのQRコード▶



発行
国立市公民館
 〒186-0004
 国立市中1-15-1
 TEL 042-572-5141
 FAX 042-573-0480
 休館日：毎週月曜日

〈南インド写真展〉

国立市南インド写真展実行委員会主催の写真展です。

お話いただく河本さんが南インドで撮影した写真もご覧いただけます。

と き 2月22日(水)～3月1日(水)、朝9時～夜10時

※2月22日(水)は朝11時頃から、3月1日(水)

は夕4時までとなります。(月)は休館日です。

ところ 公民館 1階市民交流ロビー



象達の優しさと賢さにふれる



イスラム女性の手や腕の装飾



紅茶運搬のために建造された高原鉄道

(撮影：河本憲治)

「コロナ禍における迫力ある市民の学習運動として」

—第33期国立市公民館運営審議会答申を読んで—

岡 幸江 (九州大学)

公民館では、公民館事業などに関して審議する公民館運営審議会（以下、公運審）が毎月活動しています。2022年10月に任期が終了した第33期の公運審から、答申「新型コロナウイルス感染拡大時における教育機関としての公民館事業について」が館長に提出されました。そこで今回は、コロナ禍における社会教育や公民館の課題について研究されている研究者に、本答申の意義と今後の活かし方について、ご寄稿いただきました。



岡 幸江 さん

■市民の学習運動としての本答申 —誰が未曾有の事態を記録し・情報共有するののか

私はコロナ禍に突入した2020年当時、今ごめいている公民館や地域の実態を誰かが拾いあげ共有しなければ、と真剣に思っていました。こと各自自治体に関してそれは本来社会教育行政の仕事だろうとも。でも多くは目の前の対応に追われる中、ならば研究者として私が、との思いで学会や個人で調査を行ったり、研究プロジェクトに取り組んだりしてきました。けれど今回第33期国立市公運審答申を読ませていただき、はっとしたのです。そうか公運審、もつとえば利用者・市民が調査し記録するという筋があった。なのに私はそれを見落としていた。私は本答申を「コロナ禍における迫力ある市民の学習運動」だととらえます。そして「市民が参加する

岡 幸江さんのプロフィール
九州大学教授。専門は社会教育学・地域教育論。暮らしや文化に根ざした社会教育を探索している。前任埼玉大学時代（1998〜2009年）には、三多摩の公民館にも多くを学んだ。公運審」の新たな地平を切り開いたとも思います。

コロナ禍で少なからぬ公民館職員たちは、自らの仕事の存在意義を揺り動かされ、問い直す機会を得ました。しかし本答申は、それは職員だけではない、利用者・市民にとっての公民館の存在意義の揺らぎと発見の機会でもあったのだ、と教えてくれるのです。

■市民の日常に寄り添う、自律的な教育機関として

公運審は、また声を届けた利用者・市民は、公民館をどう再発見したのでしょ。公運審答申は公民館の大事な構成要素を、「生きる権利の実現に不可欠な学習権」「市民とともにある公民館」「変化に対応できる公運審」と明快に示しています。私は特に市民アンケートの結果も受け豊かに記載された2点目に注目しています。アンケートでも「日常と共にある施設」という記載は印象的でしたが、閉館という未曾有の事態の中からこそ、見えていなかった日常の価値、そしてあたりまえのようであった公民館の存在の重さが浮き彫りになりました。もちろんその日常を支え続けるには、高い専門性ある仕事が必要不可欠です。「想像力からつながりを持ち続けていこうとする実践」「公民館自身の」困難を見える化する」「学びに参加しづらい人々を支え続ける」：これはどれも、市民の目線で数々の声からとらえた、公民館の仕事への提言だと思えます。そういう仕事「自律的な教育機関」としての社会的存在価値を示すのだとも思います。

■つながってきたから、実態へのまなざし・つながるつとめる思いが広がる

また本答申には、国立市公民館の歩んだ長い道のり、時間の蓄積を感じました。今回、公運審メンバーのまなざしは、国・自治体・公民館の判断過程、公民館の機能別の状況、さらには利用団体・市民・職員調査へと向かいました。コロナ禍にも生まれ継続された社会教育学習会やたより編集委員会や公運審という学びの場の動きを社会的に共有

しようともしてしまいました。

なぜこれほどの「まなざし」や「場」が生まれたのでしょうか。そこにはここに至る国立市公民館実践の活動とそれを支えるつながりの網の目の豊かさがあるに違いありません。私はしようがいしやや外国にルーツのある市民とつながろうとする「通信」・SNS・ラジオ・YouTube・オンラインサロンなどのコロナ禍の多彩な展開を印象深く読みましたが、当然背後には、しようがいしや青年教室、「喫茶わいがや」、生活のための日本語講座などの日常の実践の積み重ねがあったことでしょう。公民館を介した日常的なつながりの蓄積と広がりが、「想像力」の基盤となつて新たなつながりを生み、つながり続ける思いも育む。今回の「答申」はきつと過去の日常に支えられ、未来の活動とつながりへの新たな種となつていくことと信じています。



冊子を希望される方は公民館まで

国立市公民館 第33期公民館運営審議会(2020.11~2022.10)答申

「新型コロナウイルス感染拡大時における教育機関としての公民館事業について」概要

諮問の課題

✓2020年の緊急事態宣言において主催事業中止や休館(4~5月)などの対応は、市民の学習権保障の観点から適切だったか。未来に向けてその対応等を検証するため、2021年5月に館長より公民館運営審議会へ諮問。
✓本答申では、コロナ禍において起きた事実の記録・検証や市民・職員の声を拾い上げることを重視。答申本文53頁、資料・記録等100頁超を公運審委員で執筆・まとめ、2022年10月に提出。

検討経過

✓15名の公運審委員が記録班、アンケート班、社会教育学習会班、検証・提言班に分かれ活動。
✓団体・個人、職員へのアンケート、当時の公民館長や公運審正副委員長、だより編集委員会へ聞き取り調査を実施。
✓社会教育学習会「コロナ禍における学びとつながり」を企画、2021年12月に開催(参加者51名)し、記録化。

市民が学び、つながり続けるための公民館運営・事業のあり方 [主な課題提起]

- 学習権について、人々の生きる権利の実現に不可欠なものとして捉える視点を共有し、教育機関としての公民館の休館対応等を検証した。
- 国立市公民館の活動では、コロナ禍においても「安心の場・地域のよりどころとして」「つながりをつくり続ける」ことが求められる。コロナ禍で深刻化した「困難に見える化し支え合う」こと、「学びに参加しづらい人々を支え続ける」こと、これら4つの視点が重要であることを提起した。
- 休館や事業中止等の意思決定プロセスでは、公運審や市民、職員の声が活かされず、トップダウンで行われた問題を指摘した。
- 公運審は、緊急時等の変化に対応できる体制整備等を行い、公民館の民主的運営の実現に役割を果たすことが求められる。

新型コロナウイルス感染拡大時における教育機関としての公民館事業に向けた提言 [10の提言]

(1) 市民とともにある公民館運営・事業

- 提言① 主権者として、ともに知り・考え・学びあえる事業展開
- 提言② 市民や団体・サークルとのつながりづくり
- 提言③ 緊急時に対応できる公民館運営審議会の体制整備
- 提言④ 情報発信と情報交流の「ひろば」としての機能強化

(2) 教育機関としての公民館・職員体制の強化

- 提言⑤ 教育機関としての公民館の位置づけ強化
- 提言⑥ 社会教育専門職の役割と配置促進
- 提言⑦ 社会教育現場の声の反映と施設間の連携

(3) 緊急時のための事業・施設整備計画の立案

- 提言⑧ 国立市新型インフルエンザ等対策行動計画・事業継続計画の再考と具体化
- 提言⑨ 緊急時に柔軟な対応ができる公民館運営・事業の体制づくりの検討
- 提言⑩ 施設・備品整備計画の策定



末光委員長から答申が渡されました (2022年10月)

答申本文等は国立市公民館HPからダウンロードできます



公民館運営審議会報告

12月13日(火)第34期第2回定例会を開催。委員14名、館長、職員2名出席。傍聴人10名。
○前回留保となっていた正副委員長を選出。委員長に木島香織さん、副委員長に大野広子さん、隈井裕之さんの2名が選出された。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会について報告。東京都公民館連絡協議会では、令和5年2月4日に第59回研究大会を開催予定。4つの課題別集会に分かれるため、各委員の参加希望を確認した。

○館長より12月からの職員体制について報告。欠員だった正規職員1名、会計年度任用職員1名が加わった。

委員研修

○長澤成次委員(千葉大学名誉教授)によるお話。テーマは「公民館運営審議会をめぐる歴史と課題」。次回は青山鉄兵委員(文教大学准教授)にお話しいただく。

協議事項

○市長・教育長への要望書提出に向け、要望書提出の意義、今後のスケジュールの確認を行った。
○社会教育学習会について、テーマ・開催時期を検討。今後は社会教育学習会担当委員を中心に進めていく。

○今後の公運審開催日程等スケジュールを確認した。

次回1月10日(火)夜7時15分から地下ホール。感染予防の上、傍聴歓迎。(野口)

〈第18期「公民館だより編集研究委員会」から〉

つながりを求めて — 「集う」ための知恵出し合う

「公民館だより編集研究委員会」は8名の委員で構成され、月1回定例会を開き、公民館の担当職員も交えて、公民館だよりについての感想や意見交換、「サークル訪問」欄の取材・執筆を行ってきました。委員全員による座談会を開き、コロナ禍にあったこの2年間の活動を振り返りました。

第18期公民館だより編集研究委員会(以下編集研)は、大学生1名を含む新委員5名、継続3名という構成で2020年12月にスタートしました。コロナ禍という特殊な状況下での2年間の活動でしたが、任期終了にあたり「サークル訪問を中心に、委員を経験して感じたこと」、「読んでもらえる『公民館だより』(以下「だより」)にするには「コロナ禍で『だより』に出来ることは」の3つのテーマで座談会を開きました。(2022年7月28日、公民館にて)

委員を経験して

編集研委員は、「だより」最終ページの「サークル訪問」欄の取材・執筆を、持ち回りで担当しました。記事は定例会で発表し、他の委員から意見を求めました。

「取材が大好きです。出合いがいっぱいあって、交流ができて、それを文章にして皆で議論するその過程が好きです。若い委員の文章を読むとすごく触発されて勉強になる。また公民館主催の講座に行くようになったのも編集研を引き受けてからです」

「取材記事を書くのが初めてで、心がけたのは感想文ではなくて、読者を意識して書くということと、取材先で何った内容を正確に伝えるということ。読んだ人が入会してくれたという報告を聞くと、自分の記事が誰かのきっかけになったのがうれしかったです。他の委員お勧めの講座を受けたり本を

読んだりして、刺激をもらえました」

「取材は、1回目はドキドキしながらでしたが、回を重ねることに楽しめて、積極的に動けるようになりまして。書いた記事を編集研で添削というか、みんながああだこうだと忌憚なくどんどん言っ



てくれて、すごく勉強になりました。自分の書いた文章が人に読まれ、声をかけられたりすると、やはりうれしいです。講座にも前より興味を持って出るようになりました」

「記事はそれぞれの委員の持ち味が出ていて、こんな表現が出来るんだって感心し、楽しみながら学ばせてもらいました。取材で自分の世界も広がるのですが、その魅力をどう伝えたらいいか結構悩みました」

「会場調整会の運営などで活躍する、利用団体から成る『公民館利用者連絡会』(公利連)を、サークル訪問の欄で紹介できて良かったと思います(2022年6月5日号)」

「掲載後にたくさん人会希望者が来たとか、90歳の方が入ったとか聞くと、いい方と出会えたなという感じで楽しかったです」

「社会教育を学んでいて、市民講座とかサークルとか知っているつもりでしたが、実際に訪問し話を聞くと、ちゃんと自分の目で見得られる物って大きいなと感じました。新しい場所は怖くて緊張して行っただけですけど、案外、開かれていますのを知りました。参加を迷っている人の背中を押せるような、温かい雰囲気描写などを

上手く書きたい。定例会では活かな発言があり、自分と違うバックグラウンドで違う年齢の人の感想はすごく面白いなと思って聞いていました」

「取材する時に、編集研委員というの『だより』の編集に直接携わるのではなくて、ちゃんと発行されているかを見守り、市民目線や紙面の構成や講座内容の伝わりやすさ等を考える役割を担っていることをまず説明するようにしました。また立ち上げた時期などの質問事項を事前に送っておいて答えてもらいました。そうすることで意思の疎通も上手いことではと思います。調べて分かることはできるだけ事前に調べるようにしました。」

感心したのは国立は小さな市なのに、何でもこんないっぱいサークルがあるんだろうって。いろんな形でいろんな活動をしているのがよく分かります、自分が直接出向くことでそれに触れることが出来たというのは非常に大きな発見だったなと思います」

「私は、初めて読む人の気持ちになるためにあえて何も調べないで行ったことがあります。何でもこんなこと聞くのって顔されましかけど、そのときの文章が一番よく書けたかな」



毎回活発な意見交換が行われました

「何遍やっても私は慣れないです。全戸配布の発行物に署名入りで文章を載せるっていうのは、責任があると思いつながら書いています」

「訪問した立場の視点で書いています。間違えたら直さなきゃいけないけれども、基本は書いた人の責任で、なるべくその良さを残した方がいいかなという気がします」

読んでもらうのに必要なこと

「市」の『市民意識調査(令和3年)』を見ると、70歳代は回答数も多くて半数以上が『だより』をしっかりと読んでくれている。39歳以下だとドドドつと少なくなるんですよね」

「パツと見て興味を引く工夫も必要ですが、作る段階で若い人が書くものを振っていくと当事者性が生まれると思います。若い人が参加している講座では、結構アンケートに感想を書いていたりするんです。小学生もビッシリ書いてましたよ」

「そういう人たちに了解をもらって載せられたら、年代とかいろいろな属性が広がっていいですね」

「(講座参加者の)ひと言特集など、切り口を変えて載せてもいい」「ひと言くらいだと、『イメージが違った』とか『ちょっとこうして欲しかった』とか、要望なども入れていいかもしれない」

「批判というより、次につながる建設的な意見が入るといい」

「以前、他の委員と同じ講座に出て、どうしてこんなに見方が違うんだろうと思ったことがあったんですよ。そういう視点で考えることも出来るのかとすごく勉強に

なりました。そんな意見交換が出来るのが編集研の醍醐味だと思うのですが、それを紙面で出来ればより関心を持ってもらえるとと思います」

「年間を通してやっている講座を職員さんが取材をして書くというのはどうでしょう」

「(職員から)「たまに載る『公民館の窓』は職員が仕事を通じて感じたことを書くコラムです」

「親しみやすくいいですよ」

「連続講座は職員さんも思い入れが強いと思うので、そこを書いてもらうと、頑張っているな、応援しようという気持ちになります」

「この次はこうしたい、とか。負担が増えて大変だとは思いますが、面白そうです」

●写真は出来るだけ大きく

「講座を紹介するとき、講師の肩書と顔写真はきちんと付けるべきです。少し変えることでより具体的に、身近にできると思います」

「文字だけにならないようにイラストを入れてみるが、むしろ写真を大きくした方がいい」

「講座で作る料理なども写真があると訴える力が強くなりますね」

「絵画サークルの人から絵を提供してもらい、コラボ的にやった



ら、より味が出るかと思えます」

コロナ禍での「だより」の役割

この2年間はまさにコロナ禍にあり、公民館の機能、役割が問われることになりました。

「1人でもぶらつと入れるのが国立の公民館の特徴みたいで、掲示板を見たり本を読んだりして情報を得るという利用の仕方をしてる人も多い。休館になった時に『だより』で、相談コーナーがありますよとか情報発信をしてもよかった」

「掲示板みたいな感じで、つなぎ先を教えるということですね」

●新たな形でつながりを

「コロナのおかげというと語弊があるけれど、オンラインで講座にどこからでも参加できるというのはすごいことだと思います」

「小さい子がいるお母さんが、子どもを抱えて移動しながらスマホで講座に参加して、途中から帰宅して落ち着いて参加出来たっていう感想を『だより』に寄せてくださってましたね(2021年12月5日号)」

「あれにはちょっと感動しました」

「コロナで公民館が閉館になっ

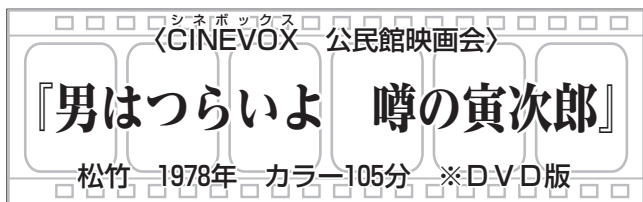
て行き場所を失ったという時に、自宅からでもつながれたら精神的に違うでしょうね」

「感染したくないけれど、人とはつながりたいっていう人は多いと思う。オンライン講座でもつながりを持ってほしいですね」

第18期公民館だより

編集研究委員

- 西尾方樹(委員長)、高木裕子(副委員長)、飯塚恵、池田祐子、大久保芽衣、小林栄子、鶴田美緒、中井一人



監督・原作・脚本 山田洋次 音楽 山本直純
出演 渥美 清、倍賞千恵子、大原麗子、泉ピン子、
志村 喬、室田日出男、下条正巳、笠智衆 ほか

「わたくし 生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯をつかい、姓は車、名は寅次郎、人呼んでフーテンの寅と発します！」お馴染み《フーテンの寅さん》が巻き起こす、恋と笑いと人情の大騒動！今回は、マドンナに大原麗子を迎え、当時は人気コメディアンだった泉ピン子の出演も話題になった、シリーズ第22作を上映します！



とき 1月22日(日) 昼2時～(開場昼1時)
ところ 公民館 地下ホール
定員 50名(申込先着順)
申込先 1月12日(木)朝9時～ 公民館☎(572) 5 1 4 1
*事前申し込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申し込みください。
*新型コロナウイルス感染予防のため、途中で10分程度、換気のため休憩を設けます。ご了承ください。

三原色で描く キミ子方式水彩画展

講座「シルバー学習室 第43期」の水彩画展を行います。三原色(赤・青・黄色)と白の絵の具で誰でも絵が描ける“キミ子方式”で描いた「もやし」「空」「毛糸の帽子」などを展示します。障害者センター「あさがお」、キミ子方式水彩画サークル「絵筆の会」との合同展です。

※「シルバー学習室」は市内に住む概ね60歳以上の方を対象に、料理、リトミック、自然観察、歴史、高齢者問題などを学んでいくなかで、新たな自分の発見や、受講者同士の交流・仲間づくりをしていく講座です。

期間 2月7日(火)～12日(日)
ところ 公民館 1階市民交流ロビー
連絡先 公民館☎(572) 5 1 4 1
障害者センター☎(573) 3 3 4 4



日本全国和菓子の旅

～和菓子を知れば地域が分かる～

講師 青木 直己なおみ(東洋大学、立正大学非常勤講師)

日本には全国各地に、形も味も様々な和菓子が存在します。近年は嗜好品としてだけでなく、地域文化を知るための調査対象として捉えられることも多くなってきました。

例えば、佐賀県の小城羊羹。発祥の地である小城(現在の小城市)は全国百名水の清水川をはじめ、水に恵まれた土地です。また、宗教都市であり立派な本山があるため、様々な行事が行われてきました。こういった特徴が、羊羹づくりを盛んにしたと考えられます。このように、和菓子を調べると、各地域の興味深い文化を知ることができます。

「菓子をめぐるとは、地域の歴史、風土、自然に触れることでもある」と青木さんはおっしゃいます。今回は主に、全国各地の和菓子の歴史についてお話いただき、各地域の文化を学ぶ講座にしたいと思います。

とき 2月4日(土)、5日(日) 昼2時～4時
ところ 公民館 地下ホール
定員 50名(申込先着順)
申込先 1月20日(金)朝9時～ 公民館☎(572) 5 1 4 1

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

スズランテープのカラフルな森づくり

講師 山田 修平
(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

スズランテープを部屋一面に張り巡らせて、カラフルな空間を作ります。天井から床まで広い空間をテープでつなぎ、素敵森の空間を作りましょう。完成後は迷路のようにくぐって遊びます。

とき 1月29日(日) 朝10時～12時
ところ 公民館 地下ホール
持ち物 飲み物、動きやすい服装
対象・定員 子ども(3歳から小学校高学年まで)と保護者12組(家族単位です) ※応募者多数の場合抽選
※市内在住・在学・在勤の方、初めて参加する方優先
申込先 1月5日(木)朝9時～9日(月)夜9時までの間に、右QRコードよりお申込みください。



〈くにたちブッククラブ 感傷から遠く離れて〉

松田青子『女が死ぬ』(中公文庫)

講師 小平 麻衣子おのへ(慶應義塾大学・日本近代文学)

とき 1月12日(木) 夜7時半～9時半
ところ 公民館 地下ホール
定員 30名(今年度すでに申込済の方は申込不要です)
申込先 公民館☎(572) 5 1 4 1
*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

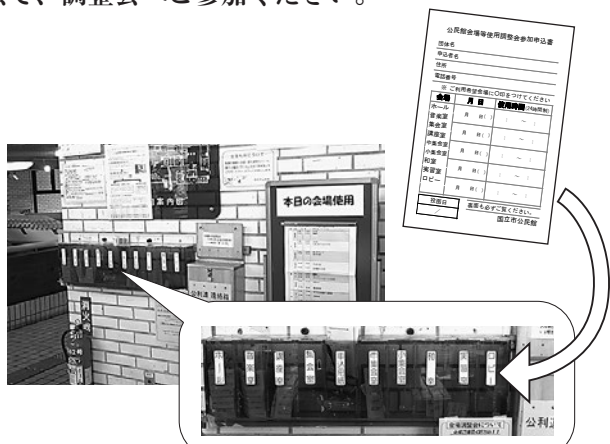
—公民館の会場予約のご案内—

公民館の会場をより多くの団体が利用できるよう、会場調整の場を設けています。引き続き、3つの密を避けるため、ご協力をお願いいたします。

3月～6月（ロビーは4月～7月）の利用希望は以下の方法で、調整会へご参加ください。

★「公民館会場等使用調整会参加申込書」の提出

公民館1階入口正面の会場別ポストに「参加申込書」を入れてください。
ポスト投入期間は、以下の表(■今後の会場調整会日程)のとおりです。



申込みに重なりがあった団体へのお知らせ

以下の表の日程で、会場別ポスト付近に掲示します。
ホームページでもお知らせします。



▲QRコードからもご確認いただけます。

「参加申込書」は、入口正面にあるポストに投入してください。

掲示のあった団体 …会場調整会への参加

調整会へは、1団体1名、第1希望が取れなかった場合の別の候補日や会場を想定して、最終的な判断ができる方がご参加ください。(開始時間に遅れたり、不参加の場合は、使用希望は取り消しとなります。)

掲示のなかった団体

会場調整会翌日以降
2階事務室へ本申込みにお越しください。
(会場調整会当日は、本申込みはできません。)

★「参加申込書」を提出していない団体の予約方法

- ・2階事務室での受付…調整会当日の午後2時～
 - ・電話での仮予約…調整会当日の午後3時～
- ※受付時間:午前9時～午後5時(月曜、祝日、年末年始を除く)

* 詳細や不明な点は、公民館までお問合せください。
* 会場調整会は、公民館利用者連絡会のご協力により実施しています。

公民館 ☎ (572) 5141

■今後の会場調整会日程

(※いずれも午前10時～)

使用希望月（ロビー）	申込書のポスト投入期間	重なり団体の掲示日	※会場調整会
3月（4月）	1月7日（土）～1月26日（木）	1月28日（土）～	2月4日（土）
4月（5月）	2月4日（土）～2月23日（木）	2月25日（土）～	3月4日（土）
5月（6月）	3月4日（土）～3月23日（木）	3月25日（土）～	4月1日（土）
6月（7月）	4月1日（土）～4月27日（木）	4月29日（土）～	5月6日（土）

ひろば



今月の公民館 (1月~2月)

- 14日(土)昼 映画『ゆめパのじかん』上映会&講演会
- 22日(日)朝 図書室のつどい『東京の古墳を探る』
- 22日(日)昼 CINEBOX『男はつらいよ 噂の寅次郎』
- 29日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう
- 2月4日(土)昼~ 文化・芸術「日本全国和菓子の旅」
- 7日(火)朝~ キミ子方式水彩画展
- 12日(日)昼~ 多文化共生「魅惑の南インド」

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせいたします。ご不明の点はお問合せください。公民館 ☎ (572) 5141



公民館の状況▲

公民館図書室休室のお知らせ

1月31日(火)から2月2日(木)まで本の点検・整理のため休室します。*新聞は、朝9時~夕方5時の間、2階事務室前で閲覧できます。



クラシックギター入門無料講座

始めてみませんか。ギター一式・教本を用意します。くにたちギタークラシカ主催。講師は三人のギタリストに師事した会員。3月5月全6回。若干名募集。

日時 第2・4金曜日朝10~12時
場所 富士見台二丁目集会所など
連絡先 こみや090(402)6974

フォトサークルくにたち

写真を楽しみたい方、もう少し上手く撮りたい方、一緒に活動してみませんか?活動を通して、会員相互の親睦を図っているデジカメ初心者のサークルです。

日時 毎月第2木曜日
場所 富士見台二丁目集会所他
連絡先 甫守042(508)8101

スポーツウエルネス吹矢!

吹矢を通じてゲーム感覚で健康の維持、増進を体感しませんか。どなたでも始められ、心肺機能の向上に役立ち、精神的にも強く成り、仲間と一緒に。無料体験会有り。

日時 不定期ですが、昼間時間
場所 公民館、くにたち福祉会館
連絡先 坂井090(249)9175

数学を楽しむ集い(1月期)

五種類しかない正多面体の性質やその体積の求め方のお話をします。数学に関し意外な事実が分かります。どなたでも気軽に挑戦してください。参加の方は、お電話を。

日時 1月7日(土)14日(土)1時~
場所 公民館 集会室
連絡先 山本(572)1028

マインドフルネスを楽しむ会

アメリカの大企業でも取り入れられている瞑想法。アスリートや受験生の集中力アップ、自立神経の安定等効果があります。お気軽にお越しください。参加費無料。

日時 1月15日(日)朝10時半~12時
場所 公民館 講座室
連絡先 酒井080(588)3095

くにたち国際友好会WING

1月の国際理解講座は、WING代表の西江勇二が、コロナ禍のもと脱炭素化とデジタル化で持続可能性を目指す世界の鉄道のお話をさせて頂きます。要事前登録。

日時 1月28日(土)夜7時~9時
場所 公民館 集会室&Zoo m
連絡先 西江070(902)7838

寝耳に水!マイナ健康保険証

今の健康保険証が使えなくなり、マイナンバーカードと一体化されるという大問題について、緊急学習会をします。スペースF主催。

講師は原田富弘さん。要予約です。
日時 1月15日(日)昼1時半~4時
場所 公民館 講座室
連絡先 事務局042(505)4414

〈サークル訪問375〉 国際文化交流会

とある火曜日の夕方、韓国語を学ぶサークル「国際文化交流会」の取材に来た私。なりゆきで学習者として参加することに。

♪コムセマリガ ハンジベ イツソソ

軽快な音楽が流れ出す。3匹の熊を題材にした韓国の童謡だそう。意味を取ろうと集中する会員たちの真似をして、私も神経を研ぎ澄ませます。

♪アッパゴモン トゥントウンへへ

不思議だ。「パ」とか「トゥ」とか、日本語にもあるけれどあまり使わない発音がいっぱい並んでいる感じ。カタカナに聞こえるのに、それが「意味」ではなく「音」の羅列として耳を流れていくのは、なんとも奇妙でもどかしい。

曲が終わる、参加者が歌詞を和訳していく。この日は、講師一人会員二人という少人数だからか、

講師の快活なフォローのおかげか、自信がなくてもとりあえずチャレンジしてみようと思えるような雰囲気があった。講師「パク・サンスクさんは日本語がペラペラで、教えるのもベテランだ。加えて知識が幅広い。参加者の興味から話



パクさん(中央)後ろのホワイトボードにも今日の学びがぎっしり

〈文・写真 大久保 芽衣〉

日時 毎週火曜日 夜6時~8時
場所 公民館
連絡先 池田 090(1779)2326

「音」が「言葉」に変わる瞬間の感動。語学学習の醍醐味。これは楽しい!

帰り道、ふと目を閉じて、さっき勉強したばかりの曲の歌詞を思い出す。
♪ヒッチュクヒッチュク ジャランダ♪
♪ニヤリニヤリ よくできました♪

を広げ、いろいろなことを関連付けて教えてくれる。似ている単語の反対の意味の単語、微妙な発音の違いで全然違う意味になってしまう単語:繋がっていくのが楽しい。そこにパクさんの生きた体験談が加わる。韓国語を通して「韓国」へと興味が広がっていく。あっという間の2時間だった。